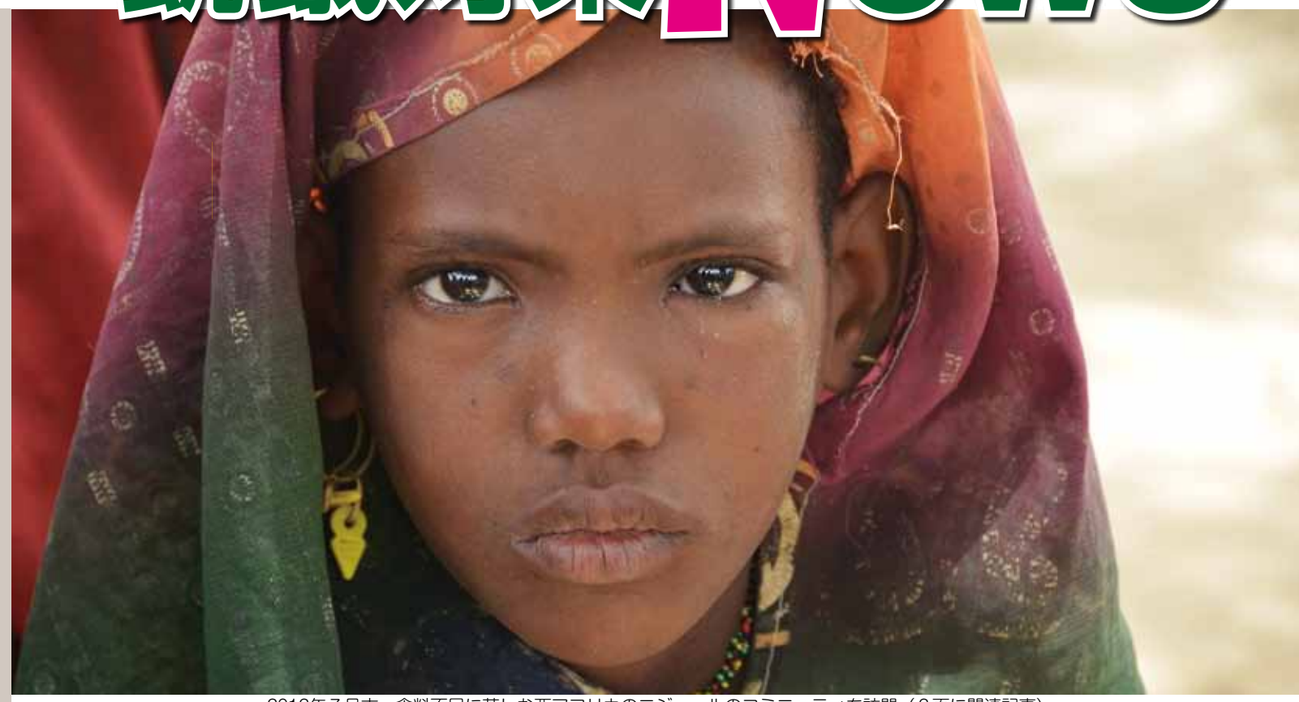
飢餓対策 NEWS　第 266 号　発行日 2012 年 8 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

日本国際飢餓対策機構　2012 No.266　9

飢餓対策News



2012年７月末、食料不足に苦しむ西アフリカのニジェールのコミニュティを訪問（２面に関連記事）

5ポンド紙幣の語りかけ

英国の５ポンド紙幣には、同名の二人の女性の肖像画がプリントされています。表面は言うまでもなくエリザベス女王二世です。裏面の女性がエリザベス･フライ女史です。彼女は熱心なクリスチャンで、社会改良家として尽力しました。５ポンド紙幣の図柄には、エリザベス･フライ女史が、女囚たちに聖書を読み聞かせ、彼女たちが泣き崩れている光景が描かれています。さらに、５ポンド紙幣には、注目すべきもうひとりの人物を発見します。エリザベスの後方に立つ長身の男性です。この人物が、日本宣教に尽力されたB.F.バックストンの祖父にあたるトーマス･フォーエル･バックストン卿です。彼は、ウイルーバーフォースと共に大英帝国において奴隷解放を成し遂げた人物です。

バックストン卿は、旧約聖書イザヤ書58章6～8節の言葉に勇気を得て、英国議会で熾烈な戦いを展開しました。その聖書の箇所から、語りかけてくるメッセージはこうです。束縛者に解放、虐げられた者に自由、飢えた者にパン、家なき者に家、裸の者に衣服、肉親に世話、「そのとき、暁のようにあなたの光はさしいで」、あなたは「世の光」となる、というのです。

イエス･キリストは、飢餓の人、さまよっている人、ホームレスの人、着るものもない人、病気の人、刑務所にいる人、これらの人々を「わたしの兄弟たち」と言われました。そして彼らの善き隣人となられたのです。

５ポンド紙幣の語りかけは、エリザベス･フライ女史やバックストン卿が、イエス･キリストが、「わたしの兄弟たち」と呼ばれた者たちの善き隣人となったように、私たちもこれらの人たちの善き隣人となるように呼びかけているのではないでしょうか。

世界では、この一文を読む間にも、飢えのために何十人もの大人や子どもが生命を失っています。「愛の反対は憎しみではなく無関心である」とマザー･テレサは言いました。愛は、まず、知ることです。関心を持つことです。そして痛みを共有することです。次に、祈ることです。さらに、飢餓対策の働きのために献金をもって参加することです。愛は行動です。思想ではありません。

「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」（マタイの福音書25章40節）

日本国際飢餓対策機構　全国賛助会　副会長　工藤弘雄
（日本イエス･キリスト教団香登教会牧師）

1 分間に 17 人（うち 12 人が子ども）･1 日に 2 万 5 千人･1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

フィリピン洪水緊急支援を開始

フィリピンでは７月下旬から８月にかけて大雨が降り続いたため、首都マニラを中心に大規模な洪水が発生、人的､経済的な被害が拡大しています。そこで当機構は、現地パートナーの国際飢餓対策機構フィリピン、ハンズオブラブ・フィリピン、ギバーズファンドを通じて、緊急的な支援を行っています。皆さまからの支援をぜひお願いいたします。ウエブサイトや郵便振替から募金ができます。「フィリピン洪水緊急募金」とご指定ください。

2013年 ONE WORLDカレンダー

ご自宅やプレゼント用にどうぞ

国際協力カレンダー「地球家族」2013 年版のお申し込み受付を開始しています。例年の壁掛型に加えて卓上型も用意しています。

壁掛型　縦 54㎝×横 36㎝ 1 部 1,050 円
卓上型　縦 12.5㎝×横 16㎝ 1 部　600 円

９月中に限り両タイプをセットでお申込み頂くと税込 1 セット 1,500 円とさせていただきます。（送料別途要）なお、壁掛型は企業名などの名入れも承っております。（10 月末〆切）お申し込み、お問い合わせは、㈱キングダムビジネスまで。

TEL：072（940）6814
FAX：072（940）6824
https://www.kbwin-win.org

お届けは 10 月上旬からとなります。

ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。

お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- ☐ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- ☐ JIFH（日本国際飢餓対策機構）サポーターとして協力します。
  毎月（　　）口　（1口 500 円）
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女

〒
フリガナ
住所：

（電話）

▼申込日：　　年　月　日▼

FAX・072-920-2155

ハンガーゼロ・サポーター　2252口。ぜひあなたのお知り合いにもお知らせください。

2012 世界食料デー さあ始めよう

いよいよ「世界食料デー」が近づいてきました。10 月 16 日は、国連が制定した世界の食料問題を考える日です。毎年、9 月から 11 月にかけて全国各地（６頁に開催日程）で行われる大会では、講演や現地報告、一食募金運動などを通じて、飢餓の現状を伝え、問題解決のための具体的な一歩を考える場となっています。開催にあたっては各大会実行委員会や支援グループ、学校、企業、キリスト教会との協力をいただきながら行っています。ぜひ食料デー大会へご来会ください。また、自主的なチャリティーイベント等の取り組みも大歓迎です。協力してくださる方に「70 億人の食卓」（カラー８頁）、みなみななみさんイラストの素敵なカードを差し上げます。

■発行者　岩橋竜介
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
eメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
身近に便利になりました
●郵便振替　00170-9-68590／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ

大阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225　FAX (072)920-2155
東京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 517 号室
TEL (03)3518-0781　FAX (03)3518-0782
愛知　〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052)731-8111　FAX (052)731-8114
広島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス 2F
TEL (082)546-9036　FAX (082)546-9037
沖縄　〒901-0156 那覇市田原3-8-1 ユリ香ハウス 201号
TEL (098)859-4585　FAX (098)859-4540
東北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階E
TEL (022)217-4611　FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

ハンガーゼロ・アフリカ　ニジェール再訪問

困難克服に立ち向かう第一歩

当機構は、ハンガーゼロ・アフリカの取り組みの一環として、深刻な食糧不足が続く西アフリカのニジェールに対する緊急支援を、海外パートナーのバルナバス・ファンドと共に2010年から続けています。今年は食糧支援に加えて、現地の人々の自立への歩みを励ますために、7月中旬に各コミュニティーの代表者を対象にしたVOCセミナー（共同体のビジョン研修）を行いました。このため岩橋理事長他２名がニジェールを訪れるとともに、オランダで農業留学中の河合朝子元海外駐在員も農業研修として合流しました。

昨年、愛知県の南山小学校と聖霊高校クワイヤーの支援により、砂進入を防ぐ井戸を囲う壁が作られました。

首都ニアメ及び約700㎞離れたマラディーの２ヵ所で各２日間行われたVOCセミナーにはそれぞれ約65名が集まり、活発な意見交換や交流の機会を持つことができました。参加者は、コミュニティーで開発プログラムに携わっている人、NGO関係者、住民の代表者（キリスト教会の牧師も含む）などで、男性とともに女性の参加者もみられました。セミナー講師は、当機構の海外プロジェクトアドバイザーのランディ・ホーグ師（VOCF代表、元国際飢餓対策機構・総裁）でした。

ランディ師は受講者同士のディスカッションを織り交ぜながら、地域が飢餓・貧困という困難に自ら立ち向かうには、リーダー、家族、教会の３つが核となる共同体を形成していくことが必要と説明。そのためには、まず自分たちでできる小さな取り組み（シードプロジェクト）を考えることが最初の一歩となると語りました。

ランディ師とセミナーの受講者

マラディーでのセミナーに参加したＩＭさん（牧師）は「もっとも教えられたことは、誰かの支援に頼ることを第一に考えるのはよくないということ。神様が私たちに与えてくださっている可能性を求め、新しいことを始めていくとき、地区全体を良くしていくことができると確信しました。これからみんなと力を合わせ、水が少ない中でも収穫が期待できる農業にチャレンジしたいと思います！」と語りました。

また1,200人以上の人々が暮らすＭ地区を訪れた際に、ニアメでのセミナーの参加者ＹＣさんと再会。彼は「収穫を安定的に確保するために井戸を作ることを考えたい。また今回の学びでモリンガ（可食植物）の事例も聞いたので、それも試したい。この地区ではイスラムとキリスト信者の壁もあるが、ぜひ一緒に共通の問題を解決していきたいです。この次皆さんがこの村を訪れたとき、その変化にきっと驚きますよ。私はそれを祈っています」と語り、希望をもって困難を改善しようとする姿勢を示してくださいました。

その一方で、いま非常に厳しい食糧不足の中ある地区の現状も確認しました。今回初めて訪れたＴＩ地区（約１千人居住）では、今年も水不足によって主食の穀物のミレットやソルガムの収穫が期待できず、すでに食糧不足が現実のものとなってきていました。このままでは「昨年と同じように雑草で飢えを凌ぐしかない」（村民）とのこと。持参していたパン・アキモト寄贈のパンの缶詰を提供、喜んでくださる様子に支援の必要を実感しました。

パンの缶詰を手渡す岩橋理事長（ＴＩ地区）

ニジェールにおけるこうした取り組みは、現地の教会のリーダーとして信望が厚いジャック・カンニデ牧師、海外パートナーのバルナバス・ファンドとの協力の中で、一歩一歩進めさせて頂いています。ぜひ、これからも皆様の応援をお願いします。

ジャック牧師と福地㊧河合元駐在員

●ハンガーゼロ・サポーターのお申し込みは、最終頁の申込み欄又はウエブサイトから。クレジットも利用可能です。

“子どもが以前と変わらず元気にすくすく成長すること”被災地で日々復興に歩む保護者の皆さんの願いは厳しい状況下にあっても変わりません。そのような皆さんを少しでも励まし、子どもたちにも元気を届けるために当機構は、地元の支援グループと協力して、子ども支援プログラムを継続しています。宮城と福島での取り組みをご報告します。

フレンドパーク（愛・信望館）

元気に遊ぶ子どもの姿が見たい！

東日本大震災 被災者支援レポート

フレンドパーク　宮城県

ＮＬ６月号でご紹介した南三陸町志津川のクリスチャンセンター「愛・信望館」では、大きな津波被害を受けた志津川の子どもたちに笑顔をと「フレンドパーク」という活動を始めました。一緒にゲームやスポーツ、勉強をし、子どもたちが気軽に集える所となっています。初めは週１回だけの予定でしたが、「仮設住宅でもやって欲しい」との保護者の要望を受け、現在は週３回３ヵ所で行っています。活動しているのはセンター常駐のメンバー４名とSOLAという被災地の子ども支援をしておられる団体のスタッフ、その都度協力して下さっているボランティアスタッフです。最近では平均15名程の子どもたちが参加してくれています。

よくここに来てくれる子どもたちは、「フレンドパークは楽しい。これからもずっとやってほしい」、「ここに来るようになってから友達ができた」と話してくれました。また、保護者の方からも「クリスチャンセンターの人たちとの信頼関係があるから、安心して子どもたちを任せられます。子どもたちがとにかく楽しそうにしているのが一番です。今迄一人で遊びに行くことができなかった子も今はクリスチャンセンターには遊びに行けるようになりました」と話して下さいました。

当機構長期ボランティアとしてこの活動に加わっている長谷さんは「最近では子どもたちだけではなく保護者の方々との関わりも多くなり嬉しい。子どもも大人も安心して気軽に集える場所にこれからもしていきたい」と話しています。当機構もそのお手伝いをさせて頂いています。皆さまの温かいご支援を宜しくお願い致します。

HOPEプロジェクト　福島県

夏休みを待ち望んでいたのは、福島に住む子どもたちも同じです。しかし屋外で思い切り遊ぶことのできない環境におかれています。その子どもたちのために、福島県キリスト教連絡会（FCC）のもと、『福島県キリスト教子ども保養プロジェクト（通称「ふくしまHOPEプロジェクト」）』が設立されました。当機構は運営を人的支援しています。３日間のキャンプを本当に楽しみにしていたという子どもたち。「生まれて初めて川で遊んだよ」「焚き火の方法を教わった」など、日常生活ではできない体験ができて大喜びでした。

コーディネーターをされている布山真理子先生は、「子どもたちは、キャンプ中は夕方暗くなるまで外で遊び続けました。保護者の方が“外で元気に遊びまわる子どもたちの姿を見ることができて本当にうれしい。でも、本当はこの光景が当たり前なのよね…”と話されたのが印象に残っています。多くのお母さんは、あの震災から子どもたちに厳しくなったと言います。“外で遊んじゃダメよ！家の中に入りなさい！とつい言ってしまうの”と、あるお母さんは話してくださいました。本当は、外で元気に遊んでほしいと願っているのに、今の福島ではそれができません。子どもたちを必死で守ろうとする保護者と子どもの未来のために、この働きがどうしても必要であることを痛感しています。」と語っておられます。どうぞ、この働きのためにお祈りください。（報告：東北事務局）

川遊びを楽しむ子どもたち

●東日本緊急支援募金にご協力を　郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構　記入欄に「東北地震」と明記

アマホロ　イマーナ！
これは、ルワンダで挨拶によく使われる言葉で「神様の平和」という意味だそうです。今年７月、２週間にわたって日本国際飢餓対策機構の親善大使としてケニアとルワンダを訪れ、貴重な体験をすることができました。

森 祐理 親善大使　ケニアとルワンダを訪問
ここに希望があることを伝えたい

現在400人の子どもたちが通うシープケア学校

ケニアにて

関空からドバイ経由でケニアの首都ナイロビに到着。外に出てまず感じたことは、「寒い！」です。道行く人々は、セーターにジャケット姿。赤道近くの国ですが、標高が高く、年平均気温も18℃前後。朝晩は10℃位で、ギラギラした太陽のイメージはすっかり覆させられました。

ナイロビでは高層ビルが立ち並び、かなりの喧騒ですが、車で少し走ると、壊れかけた家が軒を連ねる村々に出て、風景は一変します。私たちチーム６名は、ナイロビから東へ15㎞程走った所にあるソウェト・カヨーレ地区の、「シープケア」という学校を訪問しました。

ここはいわゆるスラム地区で、周囲の環境は言葉を失う程の厳しさです。その日の食べ物を得るのもたいへんな生活をしている人々ですが、だからこそ子どもたちがこの学校で学べることは、大きな希望です。10年程前に、ケニア人牧師がスタートさせ、今では幼稚園から高校生まで400人以上もの子どもたちが学んでいるのです。教室を回ると、目をキラキラ輝かせながら大喜びで迎えてくれる子どもたちの姿は、今も忘れられません。何よりもキリスト教をベースに教育がなされ、子どもたちの心にしっかりと聖書の教えが刻まれていることは本当に嬉しく、「ケニアから世界へ神の愛を届けていこう」とのスローガンの叫びは、今も耳に響いています。

希望へと変わる将来を確信

地域の方々へ安全な水の供給もされていて、一人の牧師が始めたこの働きが、地域の人々の生活と子どもたちの将来を希望へと変えている様子を見て、神さまに感謝しました。日本国際飢餓対策機構では、チャイルド・サポーター（里親）による支援も開始していますので、ぜひ皆様も支援の輪に加わって頂ければ感謝に存じます。

シープケア学校では地域住民にも水を分けています

サポーターを募集中!!

世界里親会では、シープケア学校の子どもたちをご支援くださるチャイルド・サポーターを募集しています。子どもたちが学ぶことができ、将来への希望を持つことができるように、応援をお願いします。支援のお申込みは、大阪事務所世界里親会まで。最終面の申込み欄から、ファクシミリで資料請求もして頂けます。（里親会）

ルワンダにて

ルワンダでの滞在は、なんと意味深い１週間だったことでしょうか。あの1994年に起こった大虐殺の歴史があり、正直、ルワンダの地で人々とどう向き合えばよいのか、不安な思いもありました。でもルワンダに到着して首都キガリの町を歩いた印象は、決して暗いものではありませんでした。もちろん大虐殺の爪痕が各地に色濃く残っていましたが、人々はそこから立ち上がり、前を向いて今を生きていました。そしてそれには、被害者と加害者の和解という、想像を超えた神の御業が起こっていたのです。

写真㊤リーチ代表のカリサ牧師と森親善大使
同㊦カヨンザ地区で青少年育成を目的としたサッカーチームを訪れボールを寄贈しました

バナナ畑を訪ねた私たちは、その地を開墾している大勢の方々と出会いました。彼らは皆、刑務所を出所した虐殺の加害者です。そこへ被害者の女性が現れ、なんと彼らのリーダーとハグをしたのです。信じられないような、麗しい瞬間でした。その女性は彼らを赦し、彼らも、魂がえぐられるような罪の悔い改めを経て再び立ち上がり、希望の中を生きておられます。

JIFHが支援するピース国際学校で歌う森さん

赦しと和解という奇跡

彼らが開墾していたのは、償いの業として、彼女の家を建てるためでした。そしてこのような償いの家造りや癒しの業が、ルワンダの各地で起こっているのです。被害者と加害者の方々が一つになって作る石鹸「We are ONE」やアクセサリー、見事なハーモニーを聞かせてくれたクワイヤーの歌声…私も共に歌わせて頂きながら、幾度熱いものがこみあげてきたかわかりません。

虐殺加害者から被害者への償いとして家が建てられている現場を訪れて

ルワンダを旅し、赦しと和解が起こっている現実を目の当たりにして、神様が生きて働いておられることを実感しました。またこの為に、「リーチ」というキリスト教NGO団体の地道な働きや多くの方々の祈りがあることも知り、祈りは本当に奇跡を起こすのだとも思わされました。

今日本に帰国し、自分自身どうあるべきかと問われています。「ルワンダの方々はすごい」とただ感心するのではなく、私自身も自分の置かれた場所で、赦しと和解の一助になりたいと深く思わされています。そしてこの日本においても、多くの痛みや苦しみの中におられる方々に、ルワンダでの体験を通して、ここに希望があることをお伝えしていきたいと願っています。

福音歌手　森　祐理

2012 世界食料デー大会開催日程

※ JIFH= 日本国際飢餓対策機構

※日程・会場など変更する可能性があります。事前に各大会事務局あるいは東京事務所までお問い合わせください。

大会		事務局TEL	開催日	時間	主な内容	会場
宮城	仙台	022-378-3144	11/3 ㊏	14:00	講演、現地報告など	日本バプテスト連盟・仙台基督教会
神奈川	湘南	0467-75-0542	11/24 ㊏	14:00	講演・現地報告（JIFH 清家弘久）	茅ヶ崎市民文化会館大会議室
富山	高岡	0766-21-6029	11/11 ㊐	13:30	講演・現地報告（JIFH 清家弘久）	高岡バプテスト教会
愛知	名古屋	052-731-8111	10/13 ㊏	14:00	コンサート（JIFH 親善大使　ソン･ソルナム） 講演（JIFH 清家弘久）名古屋文化短期大学学生ダンス	名古屋文化短期大学・アッセンブリーホール
大阪	南大阪	0725-22-3585	10/27 ㊏	14:00	音楽（JIFH 親善大使　ソン・ソルナム） 講演・現地報告（JIFH 清家弘久）	テクスピア大阪
	北大阪	06-6387-8178	10/16 ㊋	19:00	講演（リーチ代表 フィルバート・カリサ） 音楽（NZ 大阪教会アンサンブル＆クワイア）	チャーチオブクライスト ニュージーランド日本大阪教会
	東大阪	072-964-5144	10/17 ㊌	19:30	講演（リーチ代表　フィルバート・カリサ） 音楽（東大阪大会合同聖歌隊）	大阪シオン教会
	八尾	072-997-4838	9/23 ㊐	16:00	アフリカ支援チャリティーコンサート （星野康子、榊原契保、ヤジャ・ザポルスカ）	グレース大聖堂
奈良	奈良	072-997-4838	10/20 ㊏	14:00	講演（リーチ代表 フィルバート・カリサ） 音楽（喜多ゆり）、フェアトレード品販売	キリスト兄弟団・大和教会
兵庫	芦屋	0797-31-2093	10/21 ㊐	14:00	音楽（JIFH 親善大使　ソン・ソルナム） 講演（JIFH 清家弘久）※芦屋国際児童画展も開催予定	聖公会　聖マルコ教会
	宝塚	0797-73-6076	10/20 ㊏	14:00	コンサート（ソプラノ・安田美穂子） 現地報告（JIFH 吉田知基）、ミニバザー	宝塚栄光教会
広島	広島	082-843-5424	10/14 ㊐	15:00	講演（東京基督教大学学長　倉沢正則） 音楽	広島女学院中学高等学校　ゲーンスホール
高知	須崎	0889-43-2223	10/22 ㊊	10:30 19:30	講演（リーチ代表 フィルバート・カリサ）	生涯大学
鹿児島	鹿児島	099-722-0185	10/12 ㊎	18:00	コンサート（JIFH 親善大使　ソン･ソルナム） 現地報告（フィリピン駐在　酒井慶子） 11/3 協賛バザー（キリスト兄弟団鹿児島教会）	サンエール鹿児島
沖縄	久米島	098-859-4585	10/11 ㊍	19:30	コンサート（Manami） 現地報告（JIFH 田村治郎）	具志川環境改善センター
	北部	098-859-4585	10/12 ㊎	19:30	コンサート（Manami） 現地報告（JIFH 田村治郎）	名護市民会館・中ホール
	南部	098-859-4585	10/13 ㊏	18:00	コンサート（Manami） 現地報告（JIFH 田村治郎）	浦添市てだこホール・市民交流室
	中部	098-859-4585	10/14 ㊐	17:00	コンサート（Manami） 現地報告（JIFH 田村治郎）	沖縄市民会館・中ホール
	宮古	098-859-4585	10/19 ㊎	19:30	コンサート（JIFH 親善大使 上原令子） 現地報告（JIFH 田村治郎）	宮古島マリンターミナミビル・研修室
	八重山	098-859-4585	10/20 ㊏	19:30	コンサート（JIFH 親善大使 上原令子） 現地報告（JIFH 田村治郎）	石垣市健康福祉センター・視聴覚室

2012 世界食料デー大会の講演・報告者ほか

◆ 現地報告者

◎酒井慶子/フィリピン駐在

2008年３月にフィリピンへ派遣。ミンドロ島における総合的な村落開発に従事している。

上原令子

◆ 親善大使

◎上原令子（ゴスペルシンガー）

◎ソン・ソルナム（フルート奏者）

S･ソルナム

◆ 特別講演者

◎フィルバート・カリサ（ルワンダ・リーチ代表）

大虐殺（1994年）の起こったルワンダで、平和と和解運動を行うNPO　REACHを創設。

◆ 講演者

◎田村治郎・啓発総主事

◎清家弘久・常務理事

◎吉田知基・広報

田村治郎

清家弘久

吉田知基

各大会では世界の飢餓問題を考える講演や現地報告、コンサート、パネル展示、バザーなどそれぞれ特色のあるプログラムが用意されています。ご来会をお待ちしております。

保健所訪問の様子

高校のクラスに参加

東京基督教大学（TCU）異文化体験実習で見たこと

懸命に生きる人々の現実

東京基督教大学では毎年異文化体験実習を実施しています。今年は４名の学生が７月９日から１ヵ月間、フィリピンのマニラから車で北へ２時間余りのブラカン地区にある国際飢餓対策機構アメリカの支援地、Towerville（タワービル）村で生活しました。ここは３年前にマニラを襲った台風によって家が全壊し何もかもなくした人たちを、フィリピン政府が移住させた山岳地域の村です。

学生たちは民家を借りて生活しながら、村の人たちの家庭を訪問しました。ほとんどの家庭では、父親はもと住んでいたマニラで建設の仕事やバス、三輪タクシーの運転手などをしているので週に１回あるいは月に１回戻ってくるだけです。平均収入は１日300ペソ（約600円）、マニラではハンバーガーのセットが300円くらいですから生活の厳しさが判かります。子どもは各家庭に４～６人います。学生たちは教会の婦人会や若者たちのバイブルスタディーにも出席、保育所や小学校、高校も訪問して、日本語の賛美や折り紙を教えたりもしました。公立の保健所の１日訪問では、幼児の予防接種のお手伝い(名前を呼ぶ、記録をする、子どもをあやすなど)など充実した毎日を過ごしました。

クリスマスカード作りに励む

滞在中の学生の食事つくりや洗濯は教会のお母さんがして下さいました。洗濯はもちろん溜めた水で手洗いです。一度だけ自分たちで洗濯をしましたが２時間悪戦苦闘…重労働でした。日常生活では水が頻繁に出なくなる、シャワーもなく、貯めた水をひしゃくですくっての水浴び、トイレットペーパーは流せない、便座はないなどまさに異文化体験の連続でした。この地域では「クリスマスカード作り」が旬を迎えていました。カードを書くために、教会やコミュニティセンターに１日50人くらいの里子が集まってきます。配られた白紙のクリスマスカードを手に緊張しながらエンピツを持って、カードを一生懸命作っていました。「英語で“メリークリスマス！”と書きたいから、スペルを教えて！」と言ってくる子、自分が行っている教会を黙々と描く子、なかなか文章が浮かばず隣の子に聞きながら書く子、…日本の里親さんの里子たちもこうして、愛する里親さんに心をこめてクリスマスカードを書いていることでしょう。

手洗い洗濯体験で日頃の苦労を感じる

里子として支援を受けている子どもたちは、みなさまざまな痛みや悲しみを持っていますが、里親さんのために心をこめてお祈りしています。日本でも多くの里親さんが子どもたちのために熱いお祈りと尊いご支援をしてくださっていることを心から感謝して帰国の途につきました。

（引率者：世界里親会　吉本愛美）

それぞれの思いをクリスマスカードに綴る子どもたち